

滞在型の観光地にむけて

平成21年8月27日19:00より

- 1 米沢市の概要
- 2 なぜ滞在型観光か？
- 3 着地型旅行とは？
- 4 米沢市の取り組み
- 5 着地型旅行の課題
- 6 最後に

滞在型の観光地に向けて

1 米沢市の概要

(1)米沢市の観光資源

- 上杉家をはじめとする史跡
- まつり・イベント
- 豊富な食
- 温泉
- 四季折々の自然 etc.

滞在型の観光地に向けて

1 米沢市の概要

(参考)アンケート結果

平成20年11月 「全国ふるさとフェア」(横浜赤レンガ倉庫)で実施

米沢市と聞いてイメージするものは何ですか？

- | | |
|----------|-----------|
| 1 米沢牛 | 52.5パーセント |
| 2 米沢ラーメン | 13.0パーセント |
| 3 上杉の城下町 | 11.9パーセント |
| 4 直江兼統 | 6.6パーセント |
| 5 温泉地 | 8.9パーセント |
| 6 わからない | 0.1パーセント |
| 7 その他 | 0.5パーセント |

滞在型の観光地に向けて

1 米沢市の概要

(2)年度別、目的別観光客数の推移

「平成21年度商工観光のあらまし」p55参照

→緩やかな減少傾向にあったが、近年は大河ドラマ『風林火山』、『天地人』などの効果により漸増傾向。
内訳をみるとスキ一場、温泉地は減少傾向。

滞在型の観光地に向けて

1 米沢市の概要

(3)米沢市観光振興計画

・平成19年3月に民間の方々を中心に策定

基本方針

成せばなる 成さねばならぬまちづくり

～市民と訪れる人が

ともに豊かさを感じるために～

- アクションプラン

- ・ひとづくり:郷土愛とおもてなしの心を育てる
- ・まちづくり:豊かさを実感できる受入れ体制整備
- ・個性づくり:米沢らしい観光地を創る

※ 会津・米沢地域観光圏整備計画(会津8市町村と米沢市で構成)

滞在型の観光地に向けて

2 なぜ滞在型観光か？

- ・米沢をより多く知ってもらうことにより、米沢ファンを獲得する。
- ・滞在時間が長ければ大きな経済効果。

滞在型の観光地に向けて

2 なぜ滞在型観光か？

参考 宿泊客と日帰り客

○「会津・米沢地域観光圏アンケート 平成20年度」

宿泊客一人当たりの消費額 31,493円

日帰り客一人当たりの消費額 9,304円

※宿泊客は会津・米沢で一泊以上された方

○「旅行・観光産業の経済効果に関する調査研究 平成19年度」

宿泊旅行 15,295円

日帰り旅行 4,948円

滞在型の観光地に向けて

3 着地型旅行とは？

(1) 字義的な意味

旅行のパック商品で目的地の旅行業者が企画した商品。従来の旅行パック商品は東京にある大手の旅行会社が企画するのがほとんどで、その地方における隠れた貴重な文化などを見落とすこともしばしばあった。また、大量販売を行って空欄にしようにするために企画が型にはまりがちということも指摘されている。地元の旅行会社は、地元で評判の美味しい料理店や地場産業の見学会など多様な企画を立てることができる。従来のような定型のパック旅行に趣きを感じているような人たちに好評である。

……………YAHOO!辞書より

※ 旅行を販売するには、旅行業が必要になる。

(2) メリット

- ① 地域のアピール作りに役立つ
- ② 地域のアイデンティティ形成
- ③ 地域への経済波及効果 .etc

→ しかし成功事例はまだ少ない

滞在型の観光地に向けて

3 着地型旅行の先進事例

○三重県観光販売システムズ

三重県と連携しながら、着地型旅行商品を発地で販売する仕組みの構築

<https://ig107.secure.ne.jp/~g107441/mie-kanko/tour/mie-umas/index.html>

○別府ハットウオンパク

まち歩きを中心としたガイドツアーの集積

<https://www.onpaku.jp/com/>

滞在型の観光地に向けて

4 米沢市の取り組み(1)

○着地型メニューの創出

- ・駅からハイキング、駅長おすすめの小さな旅の創出

○着地型旅行インストラクター養成講座の実施

(会津・米沢観光圏整備事業)

○まち歩きを楽しんでもらえるように

- ・紺地日の丸を使った景観整備
- ・札の辻を活用した案内人の配置とまち歩きツアーの実施

滞在型の観光地に向けて

4 米沢市の取り組み(2)

○小野川温泉のまち歩き

○多彩な体験メニュー

滞在型の観光地に向けて

5 着地型旅行の課題

- コーディネートする人材の確保
- 旅行会社をどうするか
- 発地(首都圏等)に向けた情報発信

滞在型の観光地に向けて

6 最後に

- 着地型旅行、ニューツーリズムの提供はまだまだ始まったばかり。

行政だけではなく、民間の方々との連携で魅力的なメニューを創出していく必要がある。

滞在型の観光地に向けて